

他人のけんかは大きければ大きいほど面白い -研修医にとって論文を読む意味とは

担当 北井隆平

医学雑誌には必ず Letter to Editor という掲載された論文に対する読者の反応を載せるページがある。ここには「おまえの論文のデータ解釈が間違っている」だの、「研究手法には同意しかねるので外科医である自分は途中脱退した、誤解するな」だのガチの喧嘩が繰り広げられている。無機的な医学論文がプライドとプライドのぶつかり合いの戦場になっている。こんな面白い見世物があるだろうか。研修医に見せたいがためにこれを始めた。

ルーチン使用の止血剤(トランサミン)の生存率改善寄与度がほんのわずかな差であることや、ICUでのSpO<sub>2</sub> 100%が必ずしも予後を改善せず、悪化させるのではないかなど、日常当たり前とっていたことの証明がいかに大変で、その解釈に世界中で論争が湧き上がっているのである。

そもそも、あなたの医学常識は正しいのだろうか? 沢山の科を回る研修医にとって、それぞれの上級医間で薬剤の用量、ひいては治療方針ですら異なることにすぐに気づく。医師として働くことになってビックリすることの最初は、医療はテーラーメイド(個別対応)の高級ディーラー(車や呉服屋のよう)の店長の対応が必要で、学問としての医学とは相容れないことだろう。顧客に対して、互いに矛盾した対応や出す商品(処方薬)が異なることは当たり前ということだ。研修医としてある治療に対して、その根拠は?と毎日聞いてみたり、それを調べると体が持たない。そのために世の中にはガイドラインとか、治療指針とかがある。でも、10年前の書物と今の記載を比較するとビックリするほどの変遷がある。

医学、医療において、情報を鵜呑みにすることほど恐ろしいことはないのです。テレビのコメンテーターの情報を基に自分の医療を組み立てている人はいないと思うが、製薬メーカーの宣伝資材や同僚からの口コミも同様に危うい情報を含んでいる。

あなたの投薬する毒、刺す針、切り裂く組織は何をもって正当化されるのか? テーラーメイドでああなたが考えた医療行為ではあるが、peer review(同僚からプロフェッショナルに批判)された時に抗するだけの根拠があるのだろうか。ある方向からみると最善かも知れないが、結果は患者にとって最悪かもしれない。古来から Hippocratic Oath の第一条は do no harm (Latin: *Primum non nocere*) なのです。同じようにリスクを負った作業でも、登山家は遭難すると自分の命で補うが、医療中の遭難は患者が命で償うのだ。

医師は生涯勉強だとどれくらい聞かせられたでしょうか? 誰もがそうありたいと思いません。でも、人間というものは出来ない事ほど声高に言うものなのです。不勉強を戒めるために医師というギルドが作ったものが、学会であり、専門医制度なのです。何かの偶然で医師免許を手に入れた君に我々先輩から教えるべきは、皆、ナマケモノ、それを同僚に悟られないために抄読会を行い、学会発表をして、論文を書き、読むのです。

加賀市という石川県の端っこにいなながらも、米国 IVY League の Affiliated hospital での Paper club の雰囲気を感じるよう企画している。それは世界に雄飛する後輩、研究に進む若き医学者、医療者に対する当院からのエールでもある。

スケジュール（ローテーション例）

2021/12/6

担当 南川

Aspirin versus clopidogrel after percutaneous coronary.

Lancet 2021 November

2021/11/29

担当 吉野

BNT162b2 Covid-19 Vaccine in Adolescents.

N Engl J Med. 2021 Sep

2021/11/22

担当 桑原

Adjuvant Pembrolizumab after Nephrectomy in Renal-Cell Carcinoma.

N Engl J Med. 2021 Nov 11

2021/11/15

担当 平谷

Psilocybin versus Escitalopram for Depression.

N Engl J Med. 2021 Apr 15

2021/11/8

担当 森

Age at Diabetes Onset and Subsequent Risk of Dementia.

JAMA. 2021 Sep 7